

救護第3班 3月12日～3月19日 管理要員・林田 優作



救援物資を積んだトラック5台で、12日夕方に出発し、途中2～3時間くらいの仮眠とサービスエリアの10～20分程度の休憩を行い、あとは走りっぱなしで、約40時間かけて石巻に行きました。東北道の入り口に警察がいて、「自己責任で通ってください」と。東北道は真っ暗で、段差やひび割れがあり、仮の補修箇所や注意のコーンが何箇所もたててありました。



石巻赤十字病院はインターの近くでしたが、街は真っ暗で自家発電の病院だけが光々と明かりがついていて、そこにたくさんの方が避難してきていました。病院の玄関に当院のディザスターが停車していて、周りに熊本の車両や機材が並んでいる、それは目立ちましたよ。

石巻には午前2時頃に着き、6時ころまで仮眠を取って機材を降ろしました。荷物はERU資機材や浄水機材、シャワーユニット、毛布、食料などです。現地では食住を自己完結できないとあって迷惑をかけますから。

気が張っていて疲れは感じませんでしたが、水が十分ではなかったのが一番辛かったです。期間の途中から水のシャワーは可能になりましたが。

全体ミーティングで、シャワーにも水が使えるようになったと報告された際、熊本からシャワーユニットの提供を申し出たら、大変喜ばれました。まだ寒い盛りで、温水が可能なシャワーでしたから。シャワーは18日に出来ましたが入れなかったのが、帰りの飛行機ではかなり臭ったと思いますよ。